

「ヒベイロン・ピレス障害者を支える親と友の協会医療機材導入計画」

「ヒベイロン・ピレス障害者を支える親と友の協会医療機材導入計画」 機材引渡式

7月30日、サンパウロ州ヒベイロン・ピレス市において、当館が実施した平成14年度草の根無償資金協力「ヒベイロン・ピレス障害者を支える親と友の協会医療機材導入計画」の機材引渡式が行われ、赤阪清隆総領事のほか、来伯中の後藤博子参議院議員、被供与団体であるヒベイロン・ピレス障害者を支える親と友の協会（ヒベイロン・ピレスAPAE）のライール・モウラ・サーラ・マラビラ会長、ジャイール・ディニズ同市副市長をはじめとする地元関係者の方々が出席しました。

このプロジェクトは、身体・知的障害児の医療・リハビリ等に必要な医療機材等を更新する費用を支援したものです。この支援により、ヒベイロン・ピレスAPAEは保健省による「中核的保健サービス機関」の承認を受け、これはブラジル全土に2000校以上存在するAPAEの中で初めてのことです。式典に出席していた関係者の方々の日本に対する謝意は大きなものでありました。

また後藤博子参議院議員は、その挨拶において、我が国草の根無償資金協力の趣旨、ブラジルでの実績等のほか、有償資金協力を含むブラジルに対する我が国経済協力の概要に触れ、式典出席者に対し、日本の経済協力の規模と重要性を強調されました。

○上記案件のプロフィール

案件名：「ヒベイロン・ピレス障害者を支える親と友の協会医療機材導入計画」

被供与団体：ヒベイロン・ピレス障害者を支える親と友の協会

契約署名日：2002年12月20日

供与限度額：74,926米ドル

案件概要：ヒベイロン・ピレスAPAEは、同市内だけでなく周辺5市から計

800名余の児童が通園するAPAEの施設の中でも中核的な施設です。しかし

ながら開設後35年が経過し、所有する医療器材の老朽化が目立ってきました。

このため老朽化した医療機材を新しくするための費用を我が国に要請してきたも

のです。



記念プレートの前で（左から後藤博子参議院議員、
マラビラ・ヒベイロピレスAPAE会長、赤阪清隆総領事）



供与された機材とともに